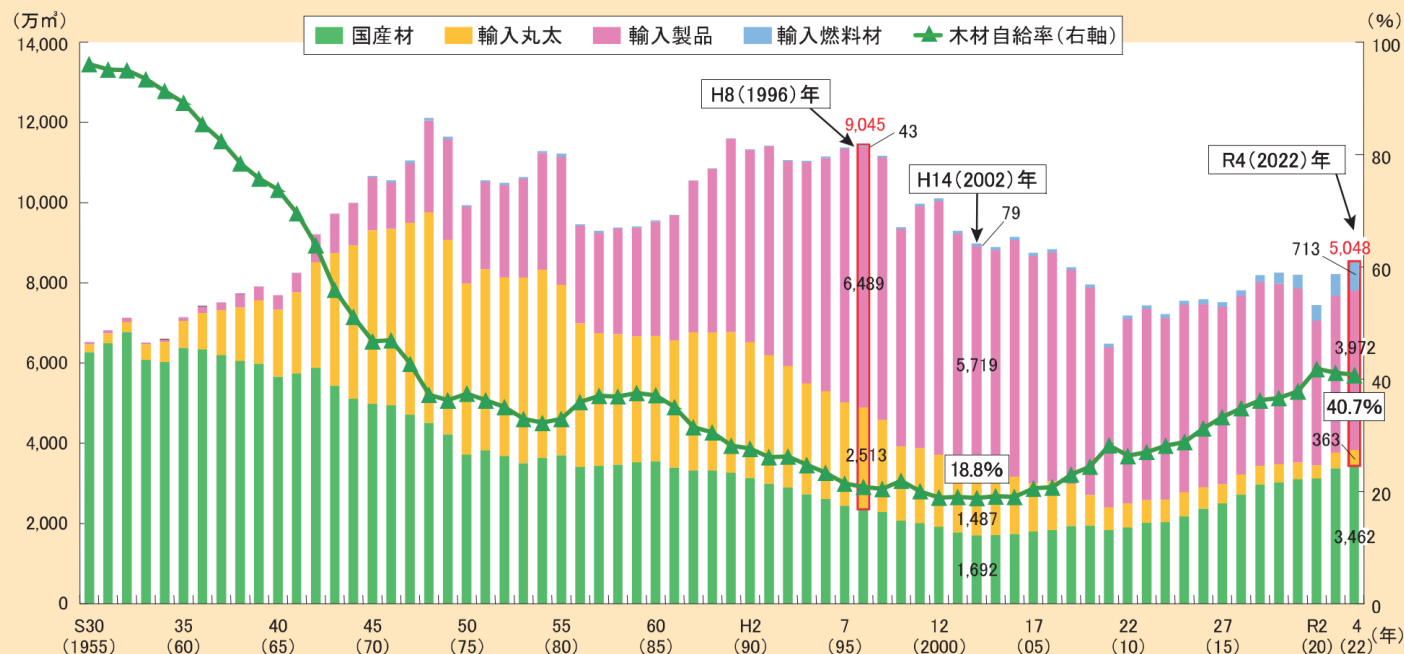


充実する日本の森林資源の活用について①

令和5年度森林・林業白書より

資料Ⅲ－４ 木材供給量と木材自給率の推移



資料：林野庁「木材需給表」

「森林は、日本で唯一自給自足可能な資源だ」とも言われていますが、実際はどのようになっているのでしょうか。

過去にはほぼ自給自足出来ていた時代もあったようです。しかし、1964年木材輸入自由化や1973年変動相場制などの大きな出来事を経て、外国産材がどんどん利用されるようになり、令和4年の木材自給率は40.7%に留まっています。

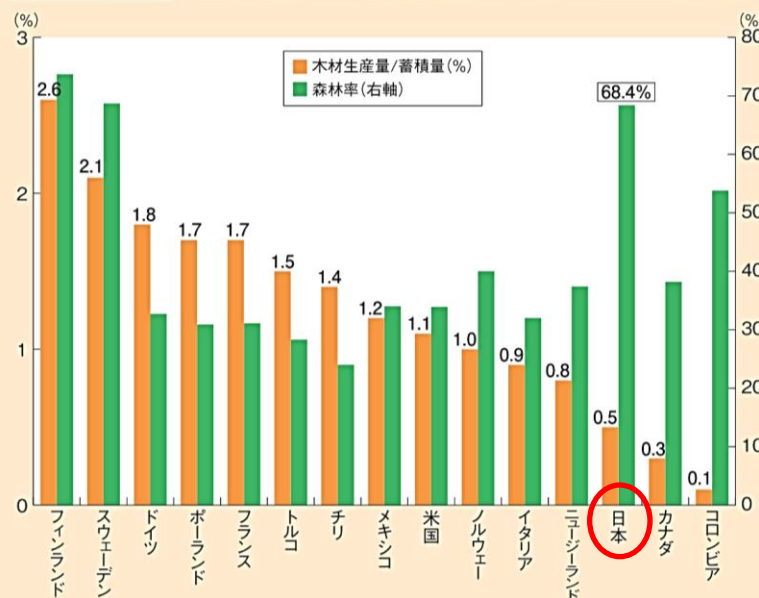
折角の豊富な資源を、有効活用できているとは言えないのではないのでしょうか。



(森林蓄積量に対する木材生産量の比率)

我が国は、国土の3分の2を森林が占めるなど世界的にも森林率が高く、その森林も着実に蓄積を増加させており森林資源の豊富な国であるが、一方で、自国の木材資源をあまり利用していない国でもある。

経済協力開発機構 (OECD) 加盟国37か国のうち森林蓄積量上位15か国について、2017年時点の森林蓄積量に対する年間の木材生産量の比率をみると、我が国は他国に比べて低位な状況にある(資料Ⅱ-4)。これら15か国のうち12か国は、2010年から2017年の間、蓄積量を減らしておらず、生産力を維持しつつ我が国よりも蓄積量に対して多くの木材を生産している。

資料Ⅱ-4 諸外国の森林蓄積量に対する木材生産量の比率

	OECD加盟国森林蓄積量上位15か国			日本
	木材生産量 (百万m ³)	森林蓄積量 (百万m ³)	木材生産量/ 蓄積量(%)	木材生産量/ 蓄積量(%)
2010	999	134,268	0.74	0.37
2017	1,124	138,314	0.81	0.55

注1：OECD加盟国(2021年1月時点)のうち、2017年における森林蓄積量上位15か国の比較(ポルトガル、オーストラリア、ベルギー、イスラエルについては森林蓄積量が報告されていないため除いている)。

注2：木材生産量は「FAOSTAT」による2017年の丸太生産量の数値。森林蓄積量は「世界森林資源評価2020」による2017年の数値。森林率は「世界森林資源評価2020」を基に算出した、2017年の数値。

資料：国際連合食糧農業機関 (FAO) 「FAOSTAT」(2021年3月1日現在有効なもの)、FAO「世界森林資源評価2020」を基に林野庁企画課作成。

他国と比べても、日本は自国の木材資源をあまり利用していない国となるそうです。2017年の丸太生産量を、2017年の森林蓄積量で割った比率を表した上記グラフのとおり、自国の森林蓄積に対する丸太生産量が他国に比べて低い=自国の木材資源をあまり利用していないことが分かります。

豊富な日本の森林資源の現状を踏まえ、木材自給率の向上が重要と言えそうです。

